

第11期 第13回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成25年8月23日（金）14時00分～16時10分

2 会 場 鳥取市教育センター 2階第1研修室

3 出席者 【委員】

渡部昭男委員（会長）、岩崎憲一委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、濱崎裕生委員、神谷正恵委員、有本喜美男委員、前田多喜男委員、横西経雄委員、福安 修委員
欠席：大西孝雄委員、吉澤春樹委員、上山弘子委員、倉持裕彌アドバイザー

【教育委員会（事務局）】

木村正人次長、神谷康弘室長、橋本浩之課長補佐、小谷昇一主幹、清水圭二主任
河井登志夫次長、小林克己係長

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報告
 - (1) 第11回 校区審議会の議事概要について
 - (2) 第12回 校区審議会（西部地域の現地視察）について
 - (3) 説明会・意見交換会等の実施報告について
 - (4) 市役所ホームページ上での情報提供について
 - (5) 自治会への意見照会結果と意見募集の市報掲載について
 - (6) 次期審議会委員の募集について
 - (7) 地域ごとの動き等について
- 5 議事
 - (1) 気高中・青谷中の校舎の耐震対策の方向性等について
 - (2) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局 こんにちは。若干定時より早いですが、本日出席予定の委員が揃いましたので、これより第13回鳥取市校区審議会を開催いたします。

本日の出欠ですが、大西委員、吉澤委員、上山委員、それと倉持アドバイザーが欠席となっています。

それでは会長よりあいさつをいただき、進行をお願いします。

会 長 こんにちは。今日を含めてあと2回という事になりました。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、議事録署名委員ですけれども、順番によりまして渡辺勘治郎委員と濱崎裕生委員ということで、よろしく申し上げます。

今日もたくさん報告事項があり、要領良く進めていきたいと思っております。

それでは、報告事項を事務局でお願いします。

事務局 報告（1）～（7）を報告。

会 長 報告事項について何か質問があれば出していただいて、無ければ議題に進みたいと思

いますが、何かございますか。

それでは、議題の資料を活かしながら協議したいと思います。

今期の審議会があと2回と申し上げましたが、10月に最後の会を予定しております。その会で第11期の審議のまとめと第12期への申し送り事項を作成したいと思います。

第11期の審議では、西部地域の事がかなり大きなテーマでしたので、この事について集中的に意見をいただき、まとめや申し送り事項へ盛り込んでいきたいと思っています。

それでは、議事(1)を事務局でお願い致します。

事務局

議事(1)を説明

会長

6月に第11回の会議を開きましたが、その時の議論の結論が説明にあった方向だと思います。現地も視察いただきましたので、その事も含めて協議を進めたいと思います。

もう一度整理をしますと、耐震性の問題と防災の観点から、ひとまず現位置での改築を行い、安心安全を確保するという事です。

2番目として、学校のあり方についての議論を継続していくという事であります。

3番目として、「中間とりまとめ」での課題は他地域にもありますので、そういう所も含めて全市的に取り組んでいくという事です。

特に1の問題については、現地を視察した時にかなりインパクトが大きかったのではないかと思いますので、少し意見を出していただければと思います。

委員

青谷中学校の校舎の耐震アンケートの集計結果にもあるように、校舎の老朽等の問題は、23年8月の段階で明らかになっている訳です。「なぜこういう危険な状態で放置しておくのか」という意見が出てくるのは当然だと思います。スピード感が無いというか、そういう思いを共有したところです。

委員

確かに青谷中の校舎については、問題があると思いました。

提案のようにすると、統合問題は消えていくと思います。中学校の統合の問題は一旦消える訳です。そのことはどうかと思いますが、現地を回ってみて、どういった方向がいいのか迷うようになりましたので、事務局の提案に異議はありません。

委員

青谷中学校を視察した印象ですが、校舎が建てられてから年数も経っていますし、傷みがひどいなと感じました。こういう環境では子ども達が可哀そうに思います。

改築等については、中庭にスペースがあり、建設位置等も埋蔵文化財の関係で簡単に手が付けられないと言われました。山陰道で色々な所を掘削している訳ですから、中学校敷地の中庭を発掘調査して、将来の生徒数を見据えたくらいの規模の木造校舎でも建てるべきと思いました。生徒数も少なくなってきましたから、それ程大規模な校舎を建てる必要はないと思います。

それから気高中学校ですが、やはり塩害で相当傷んでいて、体育館でも使いづらい所が結構あると聞きましたし、校舎も剥離している所や塩害で腐っている所、非常階段が使えないという現状があるようです。速やかに修理、修繕して、これ以上被害が広がらないようにした方がいいのではないかと思います。

2校の改築で、中学校統合の方向性は下火になると思います。やはり青谷にしる鹿野にしる、統合により中学校が無くなる事は、地域に若い世代が住み着こうかということを見ると、非常に不利だなと感じます。地域の方には一抹の寂しさがあり、逆に気高町では、気高に統合中学校という案で急激にクローズアップされるのではないかと思います。

ただし、青谷町では地元中学校を残してほしいという意見が多く、鹿野町では一貫校を考えておられる方が相当あります。鹿野の親しい人に聞くと「一貫校で進む気持ち

でいるから、校区審議会であまり議論しても仕方がない」と言う方もおられます。そういう事で、湖南学園に視察に行かれた鹿野町の方が多かったのかなと思いました。

委員

施設の老朽化に伴う対応については、その時の子ども達をどうやって安全に育てるかだと思います。ですから将来統合する、若しくは小中一貫にする、という学校のあり方は別の議論であって、それは区別して議論しないとだめだと思います。

施設を視察して、耐震化というのは必須条件で、速やかに今の子どもたちの安全を確保すべきだというのが結論です。

それと、あり方の議論は継続するという事については、前回の審議会でもありましたように、各地域の特性はありますが、地域で議論する組織の母体づくりを出来るだけ早くして、小学生や中学生が将来どんな大人になって欲しいかといった将来像を基に考えていくべきだと思います。

例えば、以前に神戸小学校を視察しましたが、少数ながら地域に根ざした小学校の機能をしっかりと保っておられました。しかし、我々校区審議会としては、将来、中学校での生活を鑑みた場合、教育、部活動における心身の成長にとってどういう規模がいいのかという事を示し、導かなければいけないと思います。

ちなみに今回の審議会の前に、統合した千代南中で一番遠距離にある集落の保護者とお話しました。学校までの距離が20キロで片道40分掛かりますが、その方が「確かに距離があり時間が掛かるので、部活が終わってから帰ってくるのに、かなりの負担が強いられる。だけど、その子の将来を考えた場合、井の中の蛙ではなくある程度の規模のところで泳がせてやったほうがいい」というような事を言っておられました。

今回視察しました青谷、鹿野地域では、各地域をバスで回ると1時間40分、50分掛かりましたが、路線バスの利用が可能であれば片道の時間は、距離的にも40分位ではないかと思っています。ですから、将来10年、20年、30年先を見据えて、色々な選択肢を考えながら議論していく組織づくりをしていただきたいと思っています。

また、学校だけではなく、地域の事も議論して、例えば山間地域の特色を活かしてIターンやJターンを募り、人を、そして子どもを増やす取り組みが出来れば、また新たな方向性が出てくる、地域の学校のあり方にも繋がってくると思います。

会長

改築案、これはもう緊急だと。しかし、それとはまた別の次元として、学校と地域のあり方はもっと真剣に継続して考えるべきだという事ですね。

委員

青谷中と気高中を視察しまして、想像している以上に安全性に問題があるなという事を思いました。

ここに中学生が通っているのかと思うと、少し怖いような気がしました。このまま統合等の話が長引けば結論が遅れ、安全確保も遅れる心配をしていたのですが、「安全を確保するため、ひとまず改築を行う」という提案はいい方向だと思いました。

これからの西部地域は、耐震化の問題とは離れて、全市域と同様に緊急度の面から議論をしていかないといけないと思いました。

委員

生徒の安全安心という観点で改築という考え方は非常にいい事で、それが一番大事ではないかと思っています。ただ、各地域で協議する組織は、やはりこれからも動いていくべきであろうし、これから10年先、20年、30年先の将来の姿を思い描きながら、そういう協議の場は作っていくべきだろうと思います。

先程、一旦改築をして10年で使わなくなると補助金を返還しないといけないという話でしたが、そういう事が生じるのですか。

事務局

これまでは「10年以内だと建築に掛かった国庫補助金を国に返さないといけない事もあって、地域の皆さん一度将来のあり方を考えていただだけませんか」という投げかけ

だった訳です。今回の提案では、そういう事はあるものの、結論を出すのに時間が掛かるので「安全安心の確保のためにまず校舎の改築を行った上で、将来どうあるべきか考えていきましょう。その中で、仮に10年以内で統合という方向になったとしても、それはそれで認めます」というところです。

委員 返還という事が出てくるかも知れませんが、やはり地域として子どもの将来像、学校の将来像、地域の将来像を考えた上で、十分協議されるべきだろうと思います。

委員 自治会を代表して出ていますので、各地区の様子を聞いてきました。鹿野は先程もありましたように、小中一貫校という意見が非常に多いようです。それで、組織のどこが窓口かと言うと、主としては地域審議会ですが、意見をまとめる段階にはまだなっていないようです。自治会でも区長や町内会長で協議しているものの、PTA等は個々にしていて、地域全体での議論という訳ではないようです。地域全体の人口は4,000人位ですが、意見交換会等の参加者は100名程度で、全体の意見とはなっていません。先にPTAを中心に行ったアンケートでも、それとは違った意見も出ており、もう一度アンケートの内容を精査し、2回目のアンケートを取るよう考えておられます。また、今後は地域全体の組織を作りたいと言っておられました。その場に福部の会長もおられ、福部でもそういった組織が動き出したので「やりましょう」と後押ししていただきましたし、窓口になる組織を作ってくださいようお願いしているところです。

気高町ですが、提案されている統合案が気高に来る案でしたから、地域の方は危機感が無く、関心が薄いというのが気持ちのようでした。ただ、小学校については、4校を一つにするのではなく、出来れば二つは残して欲しいというのが一番の希望だという事でした。組織的には、今は地域審議会が主体で、自治会としては区長や町内会長の協議だけで、他の団体と交わってというのではないようです。これから考えていくとの事でしたし、この統合問題が広く住民に浸透していない状況なので、早くそういう組織を作ってくださいようお願いしておきました。

青谷町ですけど、小学校を改築して今度は中学校をという話が進んでいたのに、合併で現在までほったらかしの住民感情が根底にあり、不信感があるとの事でした。校舎自体が非常に傷んでいて、早く耐震改修をして欲しいという事でした。山間部の子ども達は、例えば統合で浜村になったら一番奥部から通うと、朝6時40分頃には出かけなければならない。親は、5時過ぎには起きないとご飯が作れないし、帰りが仕事で遅くなれば寝る時間が無くなり、一番困るのは親だという話がありました。生徒も帰りのバスの時間に制限されて部活動も思うように出来ないのも、単独で青谷に残して欲しいという意見が一番多いとの事でした。ここでも、自治連の副会長で青谷の会長がおられたので、福部にそういう組織があるので、1年交代ではなくて継続性のある組織、窓口を作ってくださいとお願いしましたら、早速福部の会長と話をされて「進めてみます」と言うておられました。

こういう事で、3地域には窓口を作ってもらうように頼んでいるところです。

副会長 現地を見させていただき、やはり緊急的に対応がいるという感覚は持ちました。それで、今日の結論として改築の方向で考えていく事は、それはそれで子どもの安全性確保という意味から最優先で行うという意味で、非常にいい考え方だと思います。

ただ、先程10年後のことが話に出て来ましたが、この審議会の考え方として、小学校は1つだとしても、中学校は複数の小学校で構成した方がいいのではないかという事が、ある程度結論として出ていたと思います。その方向性が非常に希薄になることが懸念され、その方向性をどう取り組んでいくのかという課題が残ると思います。

その事を考えていかないと、この提案で改築してしまうと、それで終わりという形になってしまうのではないかと少し危惧しています。そこをどう進めていくのかという具

体的な方法論が必要なのではないかと、皆さんと議論を高める方法論が必要ではないか
と思います。

会 長

①の改築案は、非常に緊急度を要する事で、安心安全の確保を進めていかなければなら
ないと思いますし、委員の皆さんからも賛成をいただいたと思います。

②と③については、元々「中間まとめ」のところで我々が提起した学校のあり方、地
域と学校のあり方という事であり、ある意味、①とは少し離して議論をもっと進めてい
くべきだという事だと思います。渡辺委員のご苦勞もあって、少しずつ地域にそういっ
た組織が出来つつあるように感じています。

さらに言えば、小中一貫、統合、単独という選択肢を越えたアイデアが出てくる事を
望んでいます。例えば小中一貫を選択したとしても「中学校の部活は3地域が一緒にや
ってみよう」だとか、中1ギャップを埋める意味で、今の6・3制をどう組むかという
議論も出てきておりますが「うちの地域では小1～4年生が一つの校舎で、小5～中3
年生が一つの校舎といった組み方をやってみたい」というのもあっていいと思います。

ですから、地域の議論に返す時に、こちらが選択肢を示すことによって議論の幅が狭
くなっているような気がします。そういう意味では、逆に色々なアイデアが各地域から
出てくるような応援が出来ればという事を思っています。

事務局に前回「もし改築するとすれば、どういう試算が可能なのか」という事を願
いしていましたが、何か出来ていますか。

事務局

議事（1）についてご了承いただきましたので、これから配布させていただきます。

委 員

この12ページの議事（1）で、一部分かりにくい表現があるので、修正した方がい
いと思います。

会 長

12ページのところは、これから議論を深めていきますので、その中で文章表現も検
討していきます。

それで、先程追加で配っていただいた資料を、事務局から説明していただいて少し休
憩に入りたいと思いますので、その休憩の時に議事（1）の文章も含めて検討をお願い
します。

事務局

追加資料を説明。

委 員

気高が心配していたのは、現在の中学校の場所は見晴らしのいい所で、山を削った場
所だと思っていたのですが、元々あそこは水田だったそうで、その上に土を盛って建っ
たので地盤が弱く、液状化現象が起こるかも知れないので心配だ、と気高の自治会長が
言っておられました。その事をご存知でしょうか。

会 長

休憩後に、現在地での建て替えについて問題があるのか、ないのかということも確認
させていただきます。

(休 憩)

会 長

では、再開します。追加の資料で何か質問等がありますか。

委 員

西部地域の施設改修等の行程表（案）の言葉の表現を整理、統一したほうがいいと思
います。例えば青谷中学校のところで、「改築」という表現と「建築」という表現になっ
ていて混乱すると思いますので、統一したほうがいいと思います。

会 長 それは、統一してください。

委 員 青谷小学校のアンケートで三者三様の結果が出ています。今回改築をするけど、子ども達はある程度の規模でやっていくべきだという意見もある訳で、しっかりと説明してあげないといけないと思います。

会 長 青谷もそうですし、鹿野もそうですけども、多様な意見が出ていますので、この意見を地域としてまとめていくには、やはり議論する場が必要だと思います。

休憩前に言いましたけど、単独、統合、改築、耐震みたいな形の議論ではなくて、中学校はある程度の規模を真剣に考えるとすれば、統合とならなくても、例えば授業をオンラインで結んで交換授業をやってみようとか、放課後の活動を一緒にやってみようとかいう事が意見として出てもいい訳です。今はそういう議論をする場がありません。

もしそういう形で授業をオンラインで結ぶ事になれば、今度改築される気高中と青谷中にそういう設備を置かないといけませんし、鹿野にも設置するかどうか議論しないとイケない訳です。箱だけを考えるのではなく、その箱の中にある教室とか活動のイメージを膨らませて、設計に反映していかないと、次の一步が踏み出せないと思います。

そういう形で、地域に議論をしていただければと思っています。校舎の改築、いわゆる箱を考えるにあたって、例えば中にこういう設備とか各学校をインターネット回線で繋ぐとかいうアイデアが出てくるとすれば、いつごろまでにそういうアイデアがまとめられれば設計の中に入れることができるのでしょうか。

事務局 今回提案させていただいたスケジュールで設計しようと思いますと、大変急々なスケジュールになります。方向性が定まりましたら、この秋の9月、10月からでも各中学校、保護者も含めた学校に要望の取りまとめをしようと考えています。1月に予算化されましたら設計を発注しますので、細かい設備は後でも構わないのですが、こういった部屋が欲しいとか大きく構造に関わるものは、発注時点である程度まとめておきたいと考えています。

会 長 例えば、鳥取市の中学校の中で、オンラインを結んで何か活動を共にしているというような前例がありますでしょうか。

事務局 現在はありません。

会 長 それは、施設設備の問題でしょうか、単純に活動だけの問題でしょうか。

事務局 設備については、全校インターネットへの接続は可能ですので、つなげようと思えばつなげると思います。

会 長 生徒同士が、学校を越えて話し合いを一緒にやろうと思えばやれると思います。授業のようなものでも、いま大学ですと、双方向の授業で先生の講義を映しながら、学生の様子を見ながら、というような事も出来ます。今まで無かったけど、新しくこの西部地域で学校を越えた連携の活動を導入しようというのも一つのアイデアだと思います。

他には何かありますか。

委 員 将来統合も視野に入るという事でしたら、児童生徒数を把握した上で過大設計にならないようにという事があると思います。

それから気高中が現地建替えだと、塩害が非常に懸念されますので、塩害対策をしていただきたいと思っています。

会 長 その2点はどうでしょうか。今建っている建物は、生徒数が多かった時の設計ですから少し大きめになっていると思うのですが、改築になれば今の、又は将来予測の人数で設計されるのかという質問が1点です。
 2点目は、塩害対策はどうかという事です。

事務局 施設の規模は、把握出来る範囲の生徒推計数でクラス数を推計し、その推計の中で最大となるクラス数が入る施設にしていきます。余分な部屋までは考えていません。国の補助金も、資格面積というクラス数に応じた面積しか補助が出ませんので、そういった範囲で造っていかうと思っています。
 塩害については、青谷中、気高中に毎年1回は行っており、塩害対策は必要だと思っています。気高中に限らず青谷中も酷いので、材料等は当然設計の中で見ていく事になると思います。どういう部材でという詳細は説明出来ませんが、そういう対策は当然とらなければいけないと考えています。

委 員 最初に補助金の返還の事を聞いたのですが、補助金がどれ位か分かりませんが、例えば10億の校舎建築に対して補助金が出て、仮に5年目で使わなくなったとすれば、補助金の半額を返還とか、9年目だったら1割返還で済むとか、やはり何年目であろうとも全部返還しないとイケないとかあつたりするのですか。

事務局 国が決める耐用年数があります。例えば、まだ3年しか経ってなければいくら、いわゆる減価償却していきますので、その減価償却して計算された価格から算定される補助金の返還という事になります。
 ですから、例えば3年しか使っていない時に返す金額と、10年使った後で返す金額とでは当然違いますし、年数を経過した方が返還額も少なくなります。

委 員 教育の事ですから、お金の事だけではない部分が勿論ある訳ですが、無駄になって欲しくないと思うので、少し聞いてみました。

会 長 一通りご意見をいただきましたので、補足で私の方が準備していますコミュニティスクール資料を、この時点で説明させていただきます。
 各地域から挙げていただく提案には、色々な事があると思います。建物はこうだけでも活動は他校と一緒にやってみたいとか、それから小中連携だとか。先程のようなラインでつないでネットで合同授業というものがあると思いますし、地域とのあり方を考える時に、いま福部で出ているような取り組みもございます。
 それで、鳥取県では南部町がコミュニティスクールで「地域協働学校」という取り組みをしています。これは、それぞれの通学区の地域がもっと学校と繋がって、学校の事を応援していかうという取り組みになっています。
 南部町の方と以前から付き合いがあり、神戸大学にお招きしてお話いただいたものが、皆さんにお配りしている資料で、南部町教育委員会の方からお話いただいたものです。
 ユニークだと思うのは、名前をコミュニティスクールとせずに「地域協働学校」としているところと、二つ目は、両親は共働きで出ている事が多いので、おじいちゃん、おばあちゃん達が応援するという意味で、「PTA」とは別に祖父母を表わすグランドペアレントの頭文字「G」を取って「GTA」という応援組織を作っていると言っておられました。
 それと、起ち上げた理由としては、学校の先生には授業に専念していただくために、教育環境の整備、総合学習や生活科、そういったところは出来るだけ地域の方が応援に入ってやっていかうという事でした。
 もう一つ面白いと思ったのは、かなり高齢化が進んでいて、高齢化率が高いのですが、孫がいるいないに関係なく、お年寄りが学校に出入りしたり、自分の畑で子どもが活動

したりするという事で、高齢の方の生きがいに繋がっています。学校だけではない地域のあり方のモデルとして非常にユニークです。

具体的には、資料に組織図があると思います。こういう組織を、鹿野や青谷でも作ってみたいという事があれば、提案されてみてはいかがでしょうか。

まず、学校があり、学校の右隣にコミュニティスクールの運営協議会が作られています。この運営協議会は、保護者だけではなく地域の代表の方が入っている事が決定的に違うところです。それと学校の先生は異動で変わっていきませんが、この運営協議会のメンバーはかなり長期に渡って継続しているという特色があります。

会見小学校の場合で面白いのは、運営協議会に留まらず、学校応援隊というものを作って、お年寄りのGTA活動、学習支援、読書活動、体験交流、共同製作、安全活動という活動を常時行っている事です。この応援隊は登録して常時活動するのですが、それだけの時間が無いという方には「ちょこっとサポート隊」という、出来る時に出来る事を出来る範囲でやるという、柔軟な組織になっているという事でした。

全国では1, 570校位が出来ていて、鳥取県では南部町の4校と伯耆町の2校という事を聞いています。

また、何かの参考にさせていただければと思います。

では、議論も色々出て来ましたので、今回の持ち方について確認します。「審議のまとめと申し送り」を次回に協議したい訳ですが、何かこの時点でまとめと申し送り事項への要望や、回りの会議の持ち方への意見等がありますでしょうか。

委員 Q&Aや説明資料の修正等については、意見等をまとめた後、審議会で最終決定するような場があるのですか。

事務局 審議会もあと1回ですから、ご意見等があれば今月中に連絡をいただき、それを受けて修正や内部協議し、最終的なものをもう一度確認いただくということにしたいと考えています。

会長 Q&Aとあり方については、出来れば月末までにご意見をいただき、修正したものを出来るだけ早く市民に配りたいという事です。

事務局 具体的には、印刷して各地域に全戸配布したいという前提で考えております。市民への周知に出来る限り組んでいきたいという事です。

委員 方向性の話が具体化してからかも知れませんが、通学方法についてです。以前の校区審議会でもスクールバスの運行については、現在、行政が補助して路線バスを維持している状況で、スクールバスは二の次だという議論をした事があります。意見交換会では、スクールバスを含めた具体的な通学方法の説明がないと検討に入れないという意見が出ているので、項目を挙げて整理したのだと思います。

例えば、統合すれば広域になるという理由で、スクールバス論議を進めるという考え方だと思いますが、先に言いましたように「行政が公共バス維持に対して補助している方向性と理論的に矛盾を感じないのか」という課題が出てきて、方向性の整理をしなければならぬと思います。現段階ではどのような考え方なのか。

事務局 Q&Aにも書いていますが、路線バスやJRがあり、利用可能であれば、それを利用していただくという前提です。その上で、路線バスが無い、又はあっても通学に使えないという時には、当然スクールバスも考えていくというスタンスです。

路線があるのにスクールバスを出すということは、路線バスに乗らなくていいという話にもなりかねませんので「基本的には公共交通機関を利用するのが大前提で、事情によっては考えましょう」という事です。

- 委員 言われる事は分かりますが、それではなかなか保護者に対する説得力には欠けるのではないかという懸念があり、納得されないのではないかと思いい見しました。
- 会長 ホームページの改善のところの資料6ページに、通学対策にリンクがありますということで書いてありますが、ここに入るとどういものが出てきますか。
- 事務局 鳥取市の遠距離通学費補助金の制度説明に入ります。
- 事務局 補助制度説明のページには、路線バスの時刻や南部地域の実証運行、その他地域の運行形態といった交通対策関連のところリンクが出来るようにしています。
- 会長 以前から議論されていますが、交通対策の課題は、子どもの問題だけでなく高齢者の問題でもあつたりします。その地域での買い物や病院、登下校のための公共交通機関、オンデマンドバスやタクシーというものも含めて、どういった総合的なイメージの中にスクールバスがあるのか、というところまでの議論なのだと思います。
- 委員 西部地域は、まだ新交通体系の論議が進んでいないという事を前提で、今は考えているという事ですね。
- 事務局 はい、そうです。
- 会長 そういところも、申し送り事項に盛り込んでいければと思います。
鳥取市は広いので、例えば西部の人たちが南部で取り組んでいる運行体系等、色々工夫されて何か進んでいるとすれば、そういうアイデア等を知りたい時に確認出来たりするのですか。
- 事務局 バス路線の整備や計画は、市の交通政策課という部署が担当しております。昨年度から南部地域の実証運行をされていて、現在もその体系で運行されている状況です。
そういう計画や実施等についても、ページからリンク出来るようにしています。言われるように、そういう計画は全市を網羅しており、西部地域にも計画がありますが、まだ実施には至っていません。時期等の詳細については確認しておりません。
- 委員 今は、青谷中学校、気高中学校の方に視点が向いているようです。しかし、以前から議題に挙がっていた気高町内4小学校も、適正規模という面から見ると進めていかないといけないと思います。ある程度、話が煮詰まるような、地域の意見を吸収しないとダメですね、こちらからも働きかけないとダメですね。
今日の議論では、気高町4小学校の焦点がぼけたような気がしました。
- 会長 小学校との関係では、報告7のところの明治や神戸での懇談会がありますが、例えば明治からは、具体的に世紀小に通う3集落を明治小に返すとか、他の所に建てるとかの発言も出ています。こういうものは事務局で検討の参考になるという事ですか。
- 事務局 検討と言いますか、これから地域と議論していく中で、そういう事が可能なのかどうかを、初めから否定するのではなく、確認しながらやっていきたいと考えています。
気高の小学校の話ですと、今までは中学校の統合問題にリンクというセットになって、どうしましょうかという話でした。しかし、青谷中、気高中の校舎の問題とは一旦切り離すという事で、これからは全体の課題として規模の論議や教育はどうあるべきかといった議論をやっていきたいと思いますという位置付けになりました。当然、気高地域でも組織づくりを考えていく事になります。

- 会 長 小中一貫も、見学会の時は成功例とかポジティブな面が強調されたと思います。しかし、以前から出ている委員の意見では、6歳から15歳まで人間関係が固定して9年間進むので、もしそこでいじめとか不登校とかあった場合には、転校させるために指定校変更という事も出てくる訳です。
小中一貫のポジティブな面と同時に、気を付けないといけない面をどう考えて工夫していくのかということも含めて研究していかないと、「小中一貫校」イコール「ハッピー」だという事には多分なっていないと思います。
その辺の議論とか準備が必要だと思います。
- 委 員 東郷小学校と大正小学校について、何か動きとかありますか。
あまり議論もしていないし、情報も少ないので聞いているところです。
- 事務局 具体的にはありませんが、例えば小学校PTA連合会で、東郷小学校での検討状況を確認されていますし、校区で検討会をされるように聞いていますので、何等かの動きがあるようですという段階です。
- 委 員 ここはAランクですから、地域へ説明には行っているのですよね。
- 事務局 まだ旧市内においては、説明会についてどこにも行っていない状況です。
- 委 員 自治会長宛てに出した文書では「後日改めて説明に伺う予定です」と書いています。伺う時期が遅くなれば、地域の方も調整しにくくなると心配しているところです。
- 委 員 西部地域の中学校のあり方の説明資料は、住民の方に配られるのですよね。1ページの中で小規模校のAの該当校が載っています。これは従来からの緊急度Aですが、次の2ページになると、安全対策の面から緊急度Aに位置付けした気高中と青谷中も挙がっています。今回、両中学校が改築で安全性が確保されれば、緊急度Aで無くなり、その時点でAには挙がりませんが、その辺をどう解釈するのでしょうか。
鹿野中とリンクしているものの、耐震対策で挙がってきた緊急度Aの位置付けですので、地域の方が見られた時にどうかという事を思いました。ただ、今後も継続して考えていかないといけないと思います。
- 事務局 鹿野は現時点でもAで、2校が改築されても規模の問題が解決される訳ではないので、その辺の危機感と言いますか、それに併せて隣接の2校もという事です。当然、生徒数の問題だけは、鹿野だけで解決出来ませんというところです。
- 委 員 その事を、その下に西部地域の中学校についてという事で、Aになっていると言いたいという事ですね。
- 事務局 はい、そうです。
- 副会長 今、小規模校の中で校区外通学をしている方がいると思いますが、統合という事になれば変わってくる可能性が出てくると思います。
それなりに理由があって校区外通学をされていると思います。そういった方への配慮は、資料には出てきていないのですが、その辺りはどうでしょうか。
- 会 長 そういう特別な任務を負っている学校をどう考えるかという事ですよね。
- 副会長 その事が資料の中には出てきていないので、考え方みたいなものが今のところ感じら

れません。具体的にどうしたらいいのか今のところ分かりませんが、その辺の配慮が必要だと思います。

会 長 この辺りも申し送り事項として、いわゆる規模だけの問題ではなく、鳥取市全体で見た時に特別な任務を負っている学校があるという事です。

それと、規模が小さい方だけ注目されたのですが、審議の過程では、規模が大きくなる例えば南中をどう考えるのか、いわゆる校区割りを変えなくても、例えば指定校変更で他の学校を選ぶ事を弾力的に行うなどの対策があると思います。そここのところも手つかずになっています。

委 員 配布予定の資料を見ている訳ですが、引き継ぐ場合に、結論としては「それぞれの地域で話し合いをしてください」という事になると思います。

西部地域以外は、あまり踏み込んだ議論がされていませんし、それぞれの課題を申し送り事項としてまとめ、それを地域に促して、引き続き地域で議論をしてくださいという事になるのかな、という気がしています。

会 長 全体のスケジュールで、各地域に下ろしたもので7月末までにご意見をと書いていますが、実際には3月の校区審議会でもう一度議論をして結論を延ばし、併せて地域の意見集約も締め切りを来年2～3月に延ばしています。そのことが抜けている気がします。平成26年3月で「次期審議会答申案最終審議」、1月に「答申案作成」、12月で「答申案作成」とありますが、意見集約の期限を確認しておいた方がいいのではないのでしょうか。

先程の質問で言えば、今は地域で議論をする母体が作られたところや、作られようとしているところがあります。最終的な結論ではなくて中間的な方向性でもいいので、地域からは文書回答を挙げていただくように働きかけなければいけないと思います。

一度期限を変更しているのだから、それを促さないといけません。そのために説明会が必要なら出掛けるようにしないとダメだし、中間的なまとめでもいいので地域の意見を聞かせていただいて、次期審議会による最終報告に盛り込んでいきます。

その意見の中には、先程言ったように、単独、統合、改築という意見だけでなく、例えば「交換授業をやりたい」や「放課後活動を一緒にやりたい」、「コミュニティスクールを導入したい」というような、色々なアイデアを盛り込んでいただきたい訳です。

委 員 西部地域のあり方Q&Aや説明資料は、休み明けの来週に配布されるのでしょうか。

事務局 今月中に修正等ありましたらご報告いただいて、それを含めて9月中に事務局で内部協議し、もう一度最終確認させていただいて、それから印刷及び全戸配布という事になるかどうかと思います。

委 員 配布の場合は、このQ&Aとあり方についての両方を配布するという事ですね。

会 長 今日ご提示いただいた案をそれぞれの組織母体に持ち帰っていただいて、出来るだけ早くご意見を挙げていただければと思います。校長会でも是非協議をお願いします。

委 員 はい、わかりました。

委 員 緊急度Aの該当地区の会長に、こういう案がありますという詳しい話をしていないため、該当となっていることは分かっているけど認識がありません。逆に、どういう話を持ち掛けられるのだらうと待っています。受け身の体制なので、何かの動きをしないと話が進まないと思います。

会 長

必要なら任期中に、例えば10月にでも出掛けて行くという方策もありますし、緊急度Aのところだけ集まって懇談会のようなものを持つというような事も有り得ると思います。そういう意味では、どういう支援や働きかけが、各地域で意見を挙げていただく最もいい方法かと考えて、任期中にやるべき事はやって、申し送る事は申し送るという事だろうと思います。

それでは、事務局に進行をお返しします。

事務局

熱心な審議で、気高中学校、青谷中学校のあり方について、子どもの安心安全を最優先する改築の方向性を出していただき感謝申し上げます。

あと1回という中で、色々な申し送り事項や整理しておきたい事項を協議していただき、我々が考えていかなければいけないヒントを沢山いただきました。

例えばコミュニティスクールについて言えば、いま求められている子どもの教育が学校の中だけでは十分責任をもって行える状況がなかなか難しくなっており、保護者や地域の力をお借りして、地域を挙げて子どもを育てて行こうという時代の流れの中で新しいアイデアが出てきたと思います。つまり時代を読み取りながら、私たちが学校づくりをしていく中に、皆さんのご意見が生きていくのだと思っています。

私たちは枠組みや方向性を作ればいいというものではなく、例えば単独であっても子どもを繋げていく方法として、いまメディアがこれだけ発達している中で、こういうものをうまく活用していく事や、部活動も今までにない考え方で、例えば一つにまとまっていけば大きな活動も出来てきますので、我々は固定観念を柔軟にしながら、知恵を出して、今の時代に対応していくものを考えていかないといけないと、皆さんの意見を聞きながら思いました。

以上で第13回校区審議会を終わります。慎重審議ありがとうございました。

(終了)